



JA組織基盤 強化のために

.....
 JA教育文化活動と
 『家の光』普及活用運動の展開



I 私たちの農業・地域社会・JAグループの課題

1 食と農をめぐる課題

① 世界的な食料需要増大と国内の安定供給に向けた対応

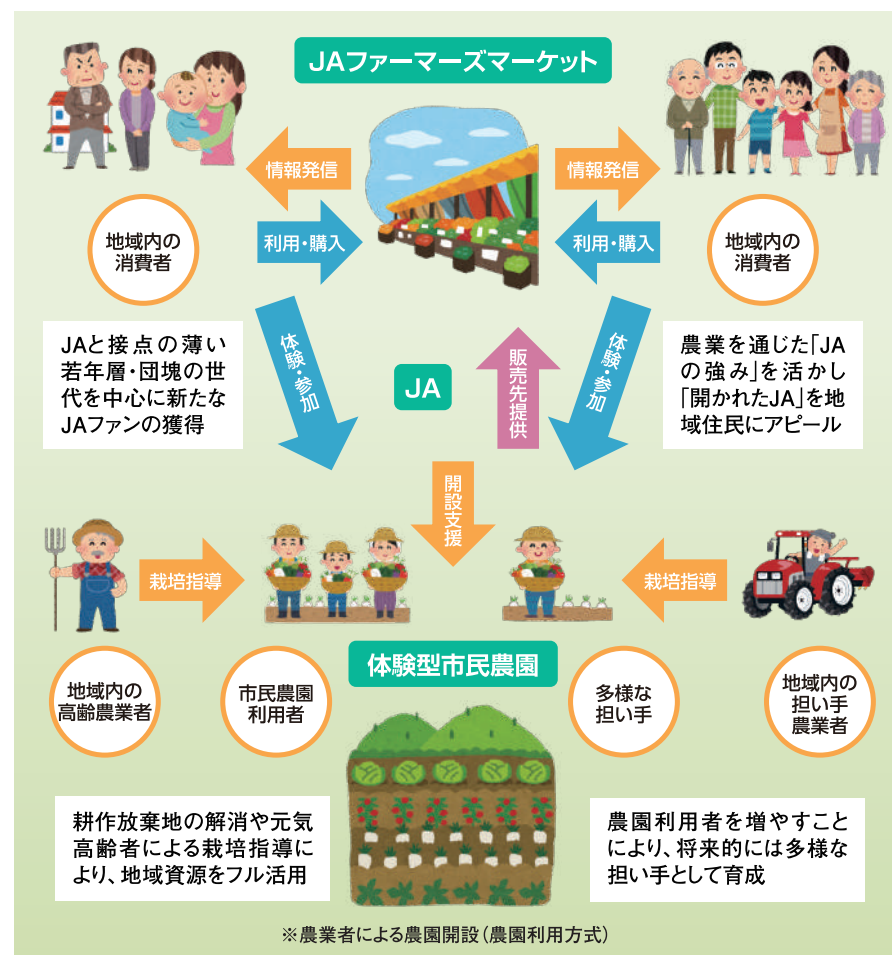
- 世界全体の人口は2050年には2000年比1.5倍の90億人超に達し、食料需要は1.6倍の約70億トンに達すると予測されています。
- 地球温暖化等の気候変動の進行により、農作物の生産可能地域の変化、異常気象による大規模な不作の頻発等、食料供給面への影響が顕在化。中長期的に世界の食糧需給がひっ迫することが懸念されます。
- 国民への食料の安定供給には、国内農業生産の維持・拡大が不可欠。JAグループが農業生産基盤の維持・拡大に取り組む必要があります。

② 農業者の高齢化・世代交代への対応

- 農業者の高齢化・世代交代が加速化し、農業者の減少が急速に進行しています。
- 販売金額1,000万円以上の農業者(全体の8%)が、全販売金額の6割を占めており、担い手経営体への農業生産と販売の集中が加速しています。
- 農業生産基盤を維持・拡大するためには、担い手の育成・確保とともに、担い手の多様なニーズに応えたJA事業運営の見直しが必要です。

③ 食と農を基軸とした地域貢献活動への対応

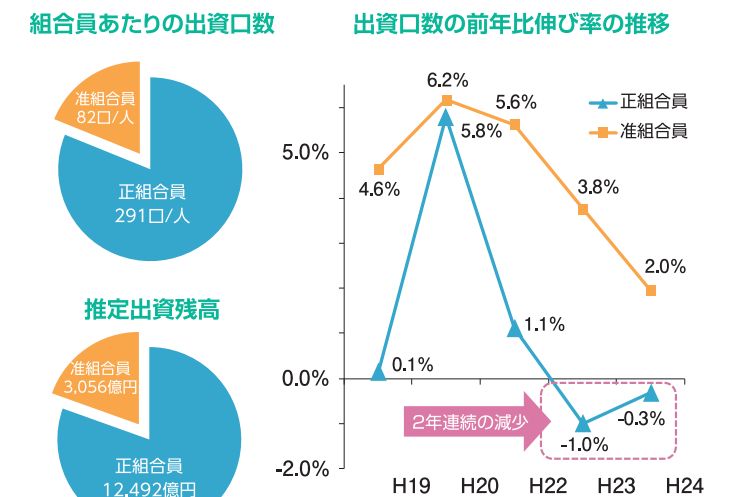
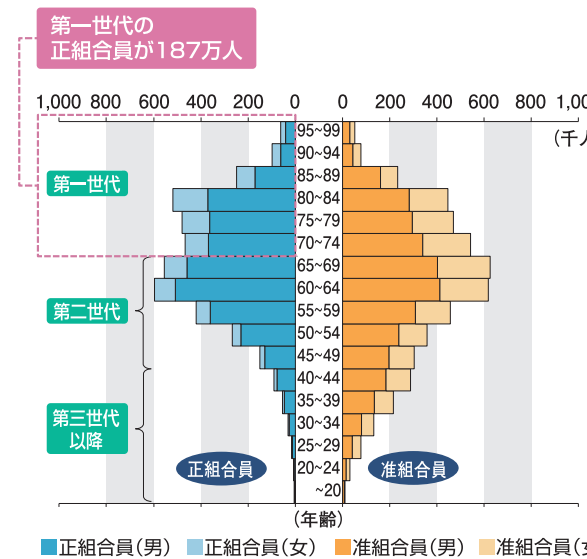
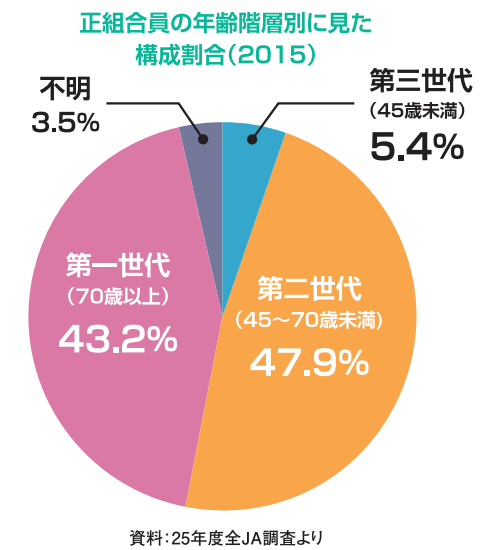
- 組合員と地域の生活者の営農と暮らしに向き合う事業・組織活動を通じ、農業振興による地域の雇用や所得への貢献が求められています。
- 「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、生活インフラ機能の発揮、地域コミュニティの活性化等による「地域の活性化」に取り組む必要があります。



2 JAグループを取り巻く課題

① 組合員の世代交代と構成層の変化

- これまで地域農業とJA運営の中心となってきた正組合員第一世代は、全正組合員の43%(80歳以上が20%)を占め、リタイアを目前に控えています。
- JAの組織基盤と事業基盤を維持するために、第二、第三世代へ、どうバトンタッチできるかが課題です。
- 組合員構成は、2009年度に正准逆転現象がおき、2015年現在では准組合員の割合が55%に達しました。
- これからのJAの発展のためには、准組合員の事業利用と協同組合らしい活動への参加が不可欠です。



② 政府による「農協改革」をふまえた課題

平成27年4月「農協法等を一部改正する法律案」が閣議決定、衆参両院での審議を経て8月に成立、平成28年4月に施行。

- ① 組合の事業運営原則の明確化
- ② 組合の理事等の構成、組織変更規定の導入
- ③ 公認会計士監査の義務付け

など、JAグループの事業・組織の根幹に関わる大幅な法改正が行われました。

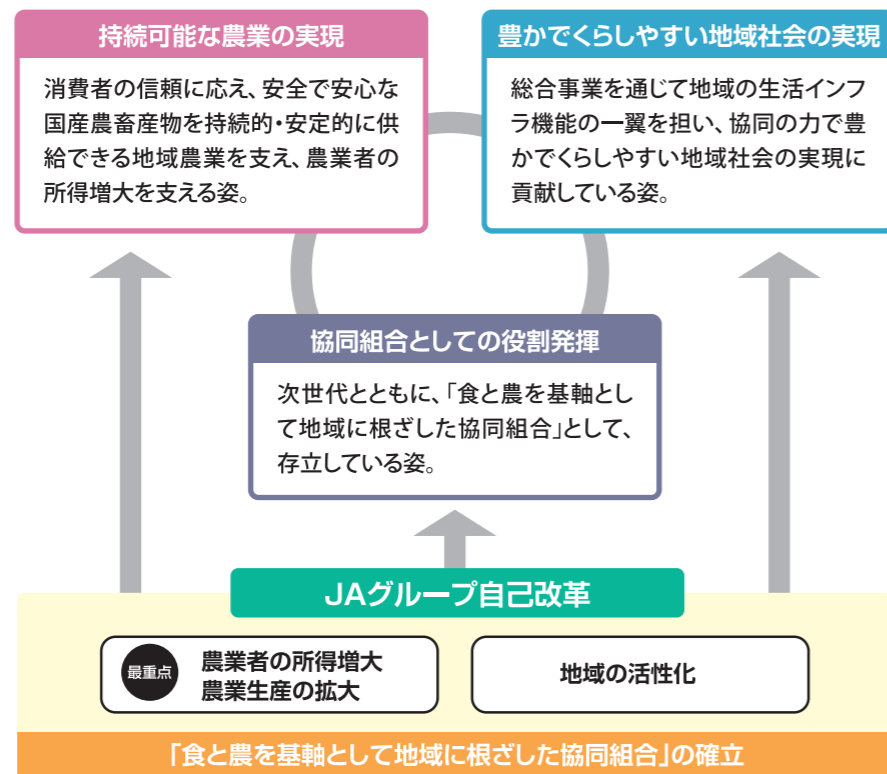
農協法改正の4本柱

- JAの事業運営原則**
非営利規定を廃止し、「農業所得の増大に最大限の配慮」を義務付け
- JAの理事構成**
過半数を認定農業者や販売・経営のプロに
- 准組合員の利用規制**
5年間実態を調査
- JAの監査**
施行後3年半までに公認会計士監査に移行

II JAグループが 求められているもの

1 第27回JA全国大会で決議したJAグループがめざす姿

地方の人口減少や農業者の高齢化等による農業生産基盤の急速な脆弱化などの厳しい環境下で、農業振興、地域振興に重要な役割を発揮し続けるため、JAは農業者・地域住民が一体となった協同活動に取り組めます。



資料：第27回JA全国大会資料より

2 重点実施事項と協同組合としての役割発揮

① 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への挑戦

- 総合力の強みを発揮した担い手経営体のニーズに応える個別対応を強化します。
- マーケットインに基づく生産・販売事業方式への転換をすすめます。
- 新たな担い手の育成や担い手のレベルアップを支援します。

② 「地域の活性化への貢献」

- 総合事業を通じた生活インフラ機能を発揮します。

③ 組合員の「アクティブ・メンバーシップ」の確立・強化

★アクティブ・メンバーシップとは？

- 組合員が積極的に組合の事業や活動に参加すること。
- JAにおいては、組合員が地域農業と協同組合の理念を理解し、「わがJA」意識を持って積極的な事業利用と協同活動に参加すること。



④ 「食」「農」「協同組合」にかかる国民理解の醸成

- 多様な広報手段を活用した「食」「農」「協同組合」の情報発信を強化。
- JAの広報機能を明確化し、情報発信を強化。

3 准組合員向けの活動強化

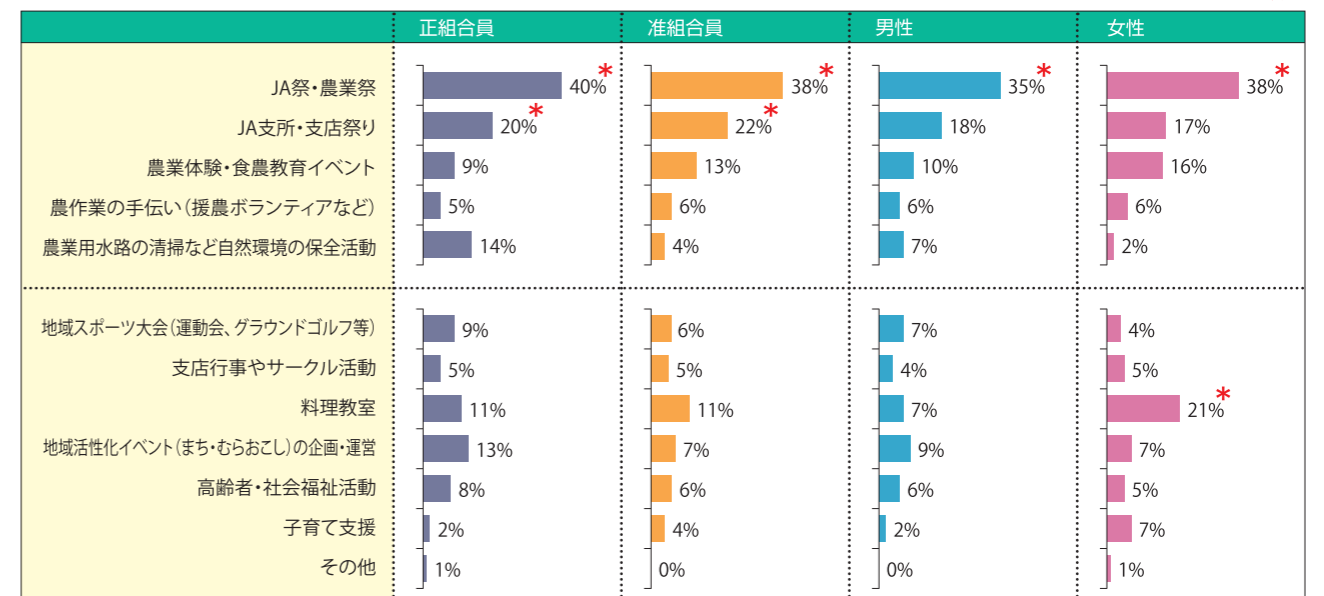
准組合員を「農業や地域経済の発展をともに支えるパートナー」と位置づけ、組合員組織活動やJA事業・活動を活性化するために、さまざまな活動への参加を促すことが大事です。

准組合員が増加している理由（複数回答）

	件数(JA)	(全体)%
1	ローン利用者が准組合員になるから	322 89.4
2	貯金利用者が准組合員になるから	191 53.1
3	准組合員の加入促進に取り組んでいるから	174 48.3
4	正組合員資格を失った者が准組合員になるから	146 40.6
5	共済利用者が准組合員になるから	140 38.9
6	正組合員の家族が准組合員になるから	109 30.3
7	SS・ガス事業の利用者が准組合員になるから	65 18.1
8	その他生活購買事業の利用者が准組合員になるから	55 15.3
9	直売所の利用者が准組合員になるから	46 12.8
10	Aコープ利用者が准組合員になるから	24 6.7
11	福祉事業の利用者が准組合員になるから	24 6.7
12	その他	21 5.8
13	農協が行っている教育文化活動への参加者が准組合員になるから	16 4.4
14	不明	7 1.9
合計		360 100.0

出所：「農協の組合員制度とガバナンスに関する研究会」(JC総研)によるアンケート調査結果(2010年)より

JA組合員が参加したい協同活動



資料：JA全中「JAの利用等に関するアンケート調査」より(平成27年3月、インターネット全国2,000名(正400、次世代400、准800、員外利用者400))

支店協同活動を中心に、活動ごとに趣味を同じくするなどの新たなグループ化をすすめて、准組合員に対して活動への参加を促進する

これらの取り組みを強化するために

- 1 協同組合の理解促進
- 2 支店を核にした協同活動の展開
- 3 JA役職員の意識改革(教育学習活動の取り組み)

JA全体で取り組む教育文化活動の展開が必要

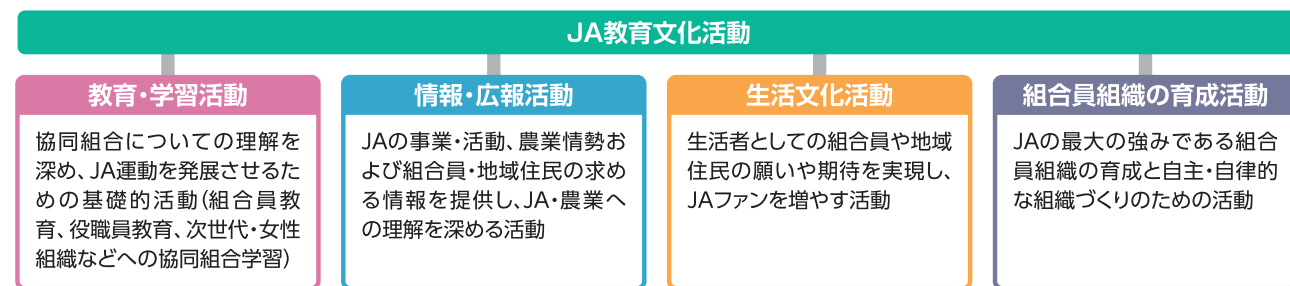
III 重要性を増す JA教育文化活動

1 JA教育文化活動の役割

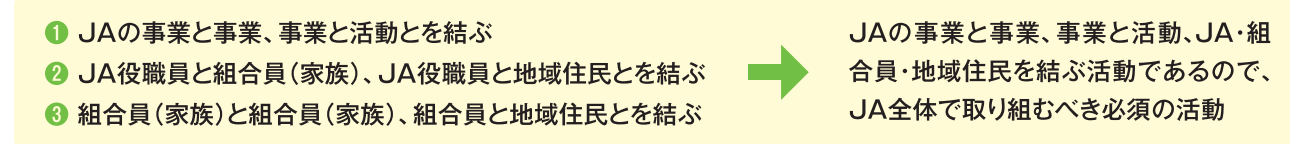
JA教育文化活動の定義

疎遠になりつつある組合員・組合員次世代とその家族・地域住民に対し、新しい関係性(密な関係性・結びつき)を築くための活動。

4つの領域



事業・活動・人を結ぶ「横糸」の役割



2 支店協同活動とは

支店協同活動の定義

組合員・地域住民・役職員の三者が参画しておこなう、地域の元気づくりをめざす支店を拠点とした活動。その活動は、教育文化活動をはじめ、暮らしと営農、地域貢献などの幅広い領域を含む。

4つの類型

類型	具体的な活動内容
イベント型	支店まつり、健康・スポーツ大会、農業体験、書道・絵画展など
地域農業振興型	農業塾、伝統野菜品評会、地場産加工品作りなど
組合員活動型	各種グループ活動、支店だより・支店協同活動コンクール、助け合い活動、趣味のサークルなど
地域貢献型	花畑・田んぼアートづくり、子育て支援、環境美化活動、防犯活動など

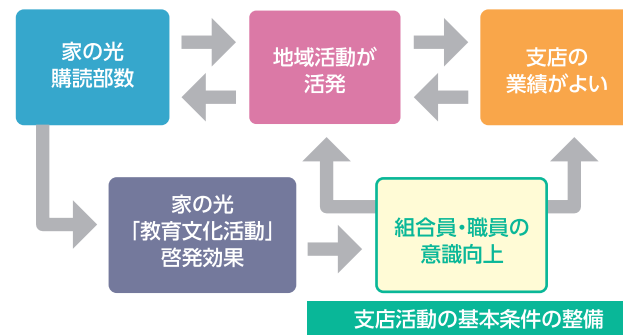
支店の組織活動と事業活動実績は相関する

■ JA支店の地域活動と事業成果の関連性の分析結果

組合員向け活動	活動組織数	支店行動計画	支店まつり	支店だより	相談活動
貯金残高	○			△	○
貸付金残高	○		○	△	△
貯金件数	○		○	△	△
貸付件数	○		○	△	△
長期共済保有高	△			△	
長期共済新契約高	△			△	
短期共済新契約高					
自動車共済契約高	○	○	○	○	
家の光購読部数	○	○	○	○	

出所：(一社)農業開発研修センター「JA支店における地域活動と経営成果への影響に関する調査研究報告書」(2013年3月)より抜粋

■ JA支店における地域活動と経営成果に関する模式図

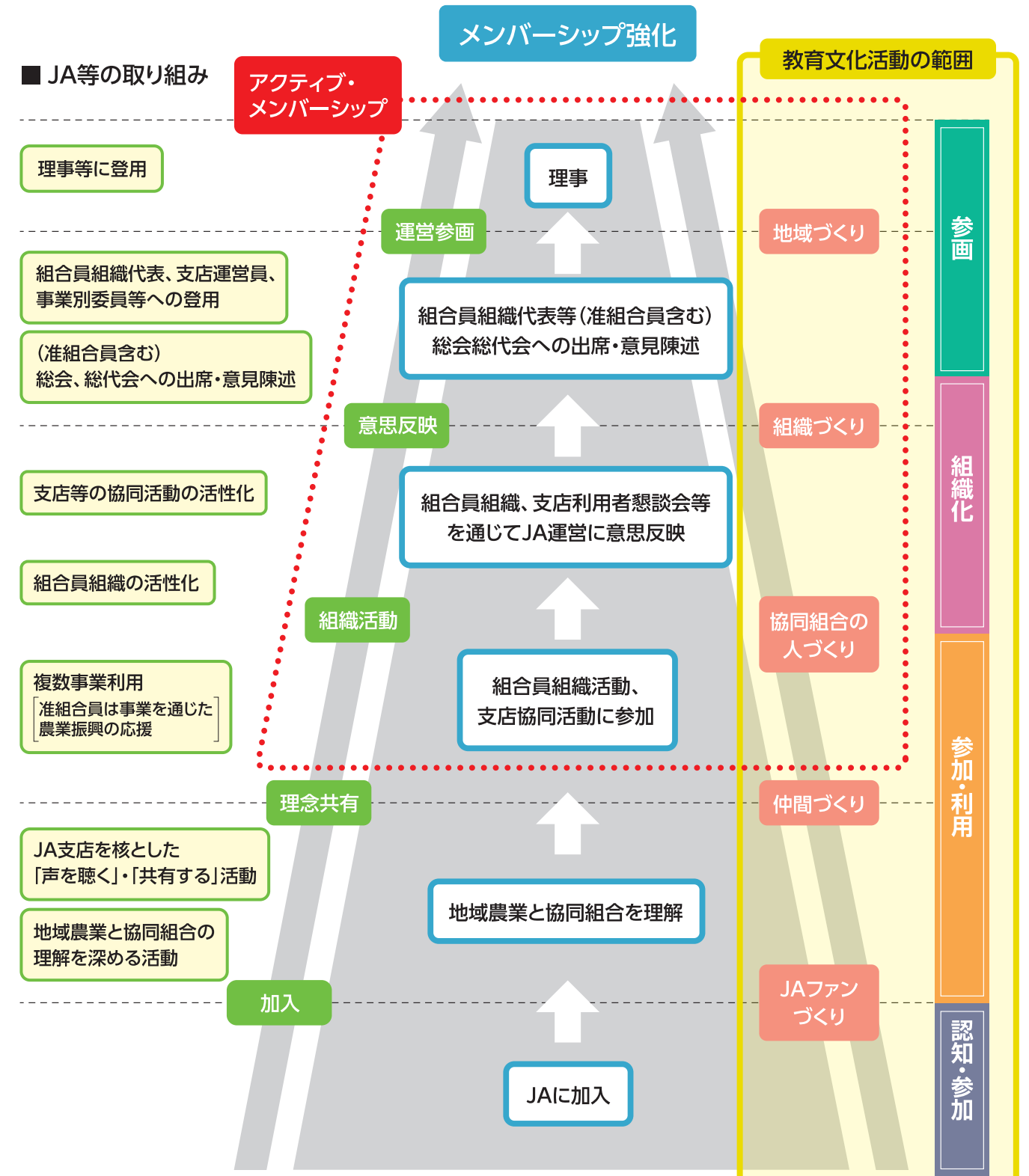


資料：仙田徹志「JA支店における地域活動と経営成果への影響に関する調査研究—愛知県内のJAを事例として—」報告会資料より

IV アクティブ・メンバーシップの確立と JA教育文化活動

1 JA教育文化活動によって組合員のメンバーシップを強化

JAのさまざまな活動やイベントの参加を通して、組合員にJAの事業・活動に興味をもってもらいます。そして、組合員からの意見や要望を事業・活動に反映し、「わがJA」意識の醸成を高めます。そのためにはJA役職員の役割発揮が不可欠です。



資料：第27回JA全国大会資料より

2 メンバーシップ強化に欠かせない組合員学習活動

組合員学習は、研修会や大会などの座学形式ではありません。グループ活動や趣味のサークル、イベントの共同作業時に得られる「感動」や「共感」も大事です。



V アクティブ・メンバーシップの確立に 家の光事業を活用しよう

1 支店協同活動を活性化させる

家の光協会は、支店に人が集まる「場」づくりの支援や支店協同活動の重要性について理解を深める機会や、各地の取り組み事例などの情報を提供します。



VI JAの組織基盤強化のために『家の光』を普及活用しよう!

1 『家の光』の5つの役割

□ 『家の光』は“協同すること”を育てます!

「協同組合とは何か」「JAって何をするとどこ?」「わたしはJA組合員である(自覚)」など基本的なことを学べる雑誌です。

□ 『家の光』は組合員の暮らしを豊かにします!

組合員の要望に応え、生活力や文化的ニーズを高める記事を充実させ、豊かな暮らしを実現するヒントをたくさん掲載しています。

□ 『家の光』はJA女性組織の活性化をすすめます!

女性のJAへの積極的な参加・参画を支援、毎号全国各地のJA女性組織の取り組みを紹介しています。

□ 『家の光』は仲間づくりのお手伝いをします!

記事活用を通してJAの最大の強みである「組織力」に密接に関わり、農協運動の発展に欠かせない、組織力強化をお手伝いします。

□ 『家の光』はJA事業・活動への理解を深めます!

「JAはどんな事業を行っているか」など、JAへの理解を促す記事が満載です。また、准組合員や地域住民への広報手段としても有効です。



食と農のウェブマガジンと3つのフェイスブックも開設



食と農のウェブマガジン
ピッカリ
pikkari





楽しい情報がいっぱい!
家の光 編集部
Facebook





フレミスおしゃべり畑
Facebook
でつながろう




2 『家の光』の活用方法

① 家族で楽しむ たとえば、『家の光』を家族みんなで読んで、情報を共有し、さまざまな夢や願いを実現す

料理がうまく ずっと元気であるために
なりたい! 健康づくり!

家庭菜園を
楽しみたい!



STEP
UP
→

投稿してみる (誌面づくりに参加)

- 「ちょっと聞いてよ!」「よもやまトーク」などのコーナーにお便り
- 『家の光』編集部フェイスブックに投稿

② 仲間と楽しむ たとえば、記事活用グループに参加したり、結成する。



STEP
UP
→

生活文化活動や地域貢献活動



- 子どもたちやお年寄りに読み聞かせ
- 伝統料理を次世代に継承

『家の光』を持ち寄ってみんなで読んだり、掲載記事をお手本に開催される料理や手芸の教室に参加

③ JA職員の学習資料として たとえば、朝礼や会議前などで読書会を行う。



STEP
UP
→

つねに職員が協同組合の理念や利点を説明する

折にふれてJA職員が組合員や地域住民に向けて協同のたいせつさ、農協の存在意義を伝えていく

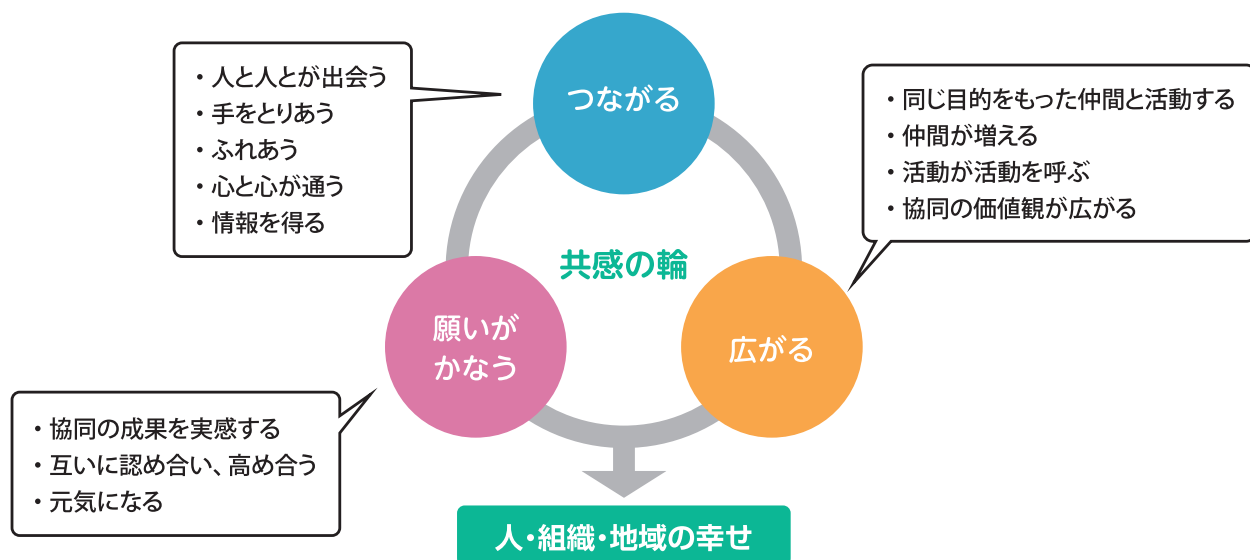
農政やJAのページを音読する、簡単な読書会

VII 『家の光』 創刊100周年ビジョン

家の光協会は、『家の光』創刊100周年に向けて、改めて「協同の心を家庭で育む」という『家の光』創刊の原点に立ち、10年後の家の光協会のめざす姿・あるべき姿を表した「ビジョン」を策定しました。

“つながる・広がる・願いがかなう”共感の輪

家の光協会は、人・組織・地域の幸せづくりをめざす
農協運動の底力となります



1 人・組織・地域の幸せづくり

人の幸せ (6つの願い)

- ① 健康に恵まれ、老後も元気に安心して暮らしたい(身体面の願い)
- ② 一定の収入を確保して、ゆとりのある生活がしたい(経済面の願い)
- ③ 心の豊かさを求め、潤いのある生涯を送りたい(精神面の願い)
- ④ 住みよい地域環境を守り、快適に暮らしたい(環境面の願い)
- ⑤ 地域や他者の役に立ち、充実感のある人生を送りたい(社会貢献の願い)
- ⑥ 自ら主体的に活動へ参画し、生きがいを追求したい(自己実現の願い)

組織の幸せ

組織に結集する一人ひとりが
生き生きと活動し、さらに組
織が元気になること

地域の幸せ

すべての人々が笑顔で暮らし
ている社会であること

2 農協運動の底力となるために

家の光協会の実践

- 原点を確認しながら、協同することのたいせつさを発信します
- JA職員・組合員の協同組合学習の提起と支援をおこないます
- 読者やJAが求める“今日的な”編集企画・記事活用・文化活動を提案します
- 着実な普及運動によるJA理解者を拡大していきます
- 組織の負託に応えるために、常に事業革新を図ります